

■児童・生徒の学力の状況

「全国学力・学習状況調査」の結果では、漢字を書く、計算をするといった知識を問われる問題やその他の短答式や選択式問題では正答率は高かったが、国語、算数とも、「目的に応じて自分の考えを書き表すこと」「理由を記述すること」において課題が見られた。算数では、計算はできるものの、用語の意味や概念の理解が十分ではないという課題も見られた。「質問調査」では、「自分とは違う意見について学ぶのは楽しいか。」という質問に対して肯定的に答えた児童は8割未満にとどまっている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- ・国語では、読むためのねらいを意識し、本文から根拠を見つける指導、本文と自分の考えを照らし合わせて書き表す指導を工夫する必要がある。
- ・算数では、児童が単位を意識すること、単位を意識しながら数直線に表すことの指導に課題がある。
- ・学習の中で、児童が試行錯誤し、思考の過程が大切にされることが「何故そうなるのか」「何故そう思うのか」について自己の考えを言語化する指導に課題がある。
- ・児童一人一人の考えを友達同士で交流する場面で、対話を通して互いに高め合い、深い学びにつなげる工夫が必要である。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- ・自分で課題を設定し、自らの学びを調整しながら最後まで粘り強く努力する態度を身に付けさせる。
- ・学習の達成感と成就感を味わえる学習環境の充実を図る。
- ・板橋区授業スタンダードSを推進するとともに、日光ラボを通して学びのエリア4校の小学校で学びをshareする。
- ・教科担任制の授業、補習と家庭学習の充実により、学習意欲を高め、基礎学力の定着を図る。
- ・思考ツールとICT機器を活用して、自らの考えを形成して伝える力の向上を図る。
- ・言語能力と語彙力を中心とした基礎学力の定着・向上、読み解く力の育成を図る。
- ・教科担任制や交換授業・教員の学び合いを行い、多くの目で子どもを見取る指導体制を構築する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習との時間の連携
○各教科等の授業において、学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り等の学習の流れを定着させる。 ○教員が単元等を選択し、児童が自分に合った学習内容、方法、ペース、順序を自己選択して学ぶ場面を設定する。	○基礎的読解力の6分類等の明確な視点をもって教科書等を読み取る場面を設定する。 ○INPUT→THINK→OUTPUTを授業の中に設定する。特に児童が主体的にOUTPUTする場面を設定する。	○総合的な学習のカリキュラムと各教科との連携を図り、各教科の学びを総合的な学習の時間に結びつけることができるようにする。 ○コミュニティスクール委員会との連携を図り、地域と連携した体験活動を行う。

■「MIRAI SCHOOL いたばし」の実現に向けた具体的な取組

郷土愛の育成 小中一貫教育の推進	カリキュラムマネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○自分の暮らす地域の豊かな自然、伝統文化を知り、地域と連携した体験活動を通して郷土を誇りに思う気持ちを育成する。 ○農業文化をもつ地域の特色を生かして、地域で生活していく自分たちの生活環境に興味関心をもたせ、SDGs ESDを意識した探究をすすんで実践できる児童の育成をめざす。 ○9年間の教育課程の構築を図るために、共通取り組み目標を設定する。	○人権が尊重される学習を行うため、道徳科や学級活動、総合的な学習を中心として、効果的な学習教材や学習方法を吟味しながら教科横断的な方法で取り組んでいく。 ○総合的な学習の時間を中心に、探究的な学習「課題の設定→情報の収集→整理分析→まとめ・表現」を行う。またこの学習を繰り返して行い、探究的な思考の育成を図る。	○意見交流や情報収集、発表資料の作成など、学びを深めるためのツールとして一人一台端末を活用していく。また、ICT支援員と連携した校内研修を実施することで、情報共有を図り、指導力の向上に努める。 ○学習の個性化や指導の個別化を意識した授業を行い、児童が主体的に学べる場を設定していく。